

# 残したい 想いと風日京

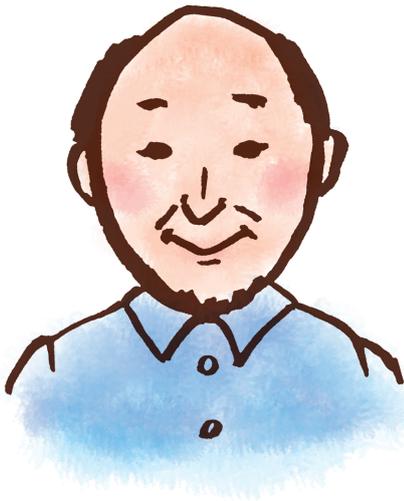


高山市  
荘川町

荘川神社 村芝居

もりした  
森下 和也さん  
かずや

舞台上で演じるのも、そして裏方も  
村芝居にはやりがいがいっぱい  
楽しんでる大人の背中を  
子どもたちに見せていきたいな



## 古くから続く村芝居

荘川町牧戸に生まれ育つた森下和也さんは、荘川神社の「村芝居」に情熱を持って関わり続けています。

村芝居とは、荘川町にある複数の神社で秋の例祭前夜祭に披露される奉納芝居で、300年ほどの歴史があると考えられています。

祭ではその年の作物をお供えして実りに感謝をしますが、村芝居も同じ意味を持っています。「立派に成長した若者たちを神様に見ていただきたい」という想いを込め、10〜30代の「若連中（わかれんちゅう）」が中心となって舞台に立ちます。

少子化が進む近年は、仕事で赴任した若者にも声をかけ、地域に暮らす皆で芝居を作り上げます。

## 秋は村芝居の季節

荘川町にある4つの神社で  
順に奉納されます

9月3日  
ののまた  
野々俣神社

「野々俣人情時代劇」と題して野々俣地区の有志によって披露されます。

9月14日  
荘川神社

村芝居を締めくくるのはこちらの神社。「御母衣ダム」の建設により水没した集落の神社も合祀されたため、氏子は広域にわたります。



9月1日  
くろだにはくさん  
黒谷白山神社

黒谷若連中『開明座』の芝居を皮切りに、荘川の村芝居は始まります。

9月2日  
いっしきはくさん  
一色白山神社

一時は芝居の奉納がなくなりましたが、近年復活しました。こちらの神社では、芝居で使ったと思われる「まわり舞台」の跡が発見されています。

# 脚本に吹き込まれる命

思いをこめて書きあげた物語は  
役者と観客の熱気によって  
魅力的な舞台となります



思わぬハプニングや観客の  
声援も、舞台を作り上げる  
大切な要素です。



仕事で赴任した若者にも参加を呼びかけます。荘川を離れても毎年芝居に通い、縁が続いている人も。



制作した脚本は10本以上。

## オリジナルの脚本を

10代の頃は役者として村芝居に参加し、やがて家業を引き継ぎ地元で会社を経営しながら、村芝居では若者の指導や運営を担うようになりました。

村芝居の演目は、過去に演じられてきた脚本がいくつかが存在していました。ある時、地域の先輩から「新しい話も作って見たらどうか？」とすすめられました。最初は断りましたが、「若者が育った姿を見てもらうための芝居なんだから、気負わずやってみたら」という言葉に、とにかく書いてみようという気持ちになりました。

仕事で特許の申請をする書類くらいでした。

ところがいざ書き始めてみると、仕事の文章とは違い自由に発想できる脚本作りは楽しく、どんどんアイデアが湧いてきました。お盆休みに時間を忘れるほど夢中になって書き上げることもありました。

実際に芝居にしてみると、今度は演じる人によってキャラクターが思わぬ方向へ動き出すこともあり、さらに面白くなりました。こうして50歳頃にゼロから挑戦した脚本制作でしたが、15年ほどの間に10本以上ものオリジナル演目を作ることになりました。

いま、伝えたいこと



（文）  
画）  
大森貴  
高山市

荘川みたいな中山間地域ではどこも、家がなくなったり子どもが減ってまうという悩みがある。そんな中でも**伝統を守って**いって欲しいという願いはもちろん持つとるよ。でも、伝えていきたいのはもっと単純な「お祭りは楽しい！」**「村芝居が好きや！」**という気持ち。**大人が楽しんどの姿を子どもたちに見せていきたい**な。楽しんでもらうことが、続いていくことにもつながるはずやと思うよ。